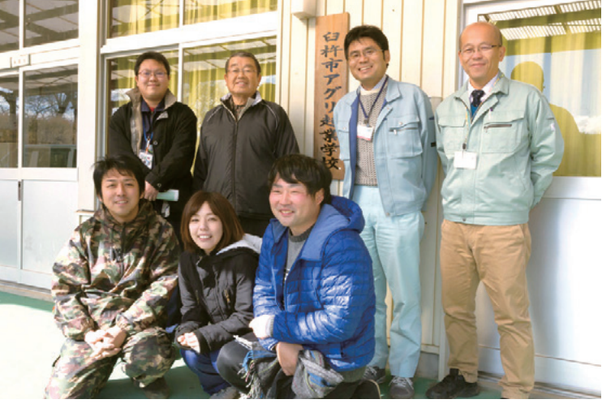


大分県の臼杵市アグリ起業学校３期生（前列）と
バックアップする県・市の農業関係職員

臼杵市の取り組み

３期生の下川祥吾・久美子夫妻はピーマン15アールとあまねぎ10アールを栽培。２人とも大分市で介護福祉士をしていたが、祥吾さんの祖父は由布市のイチゴ農家で、いつか農業をしたいと思っていた。ネットとテレビで同時に臼杵市アグリ起業学校のことを知るという運命の出会いで入学。蓄えがなかったので国の交付金を活用して準備金にした。

ピーマン栽培で「大変なのは真夏の収穫時の暑さと堆肥を入れるときの重労働くらい。未経験でも意外にできそう」（祥吾さん）というのが研修を終えての印象。久美子さんは夫の就農の決断を聞いたとき「漠然とした不安」を抱いたが、大分県の新規就農フェアで生産者の声を聞き県や市の担当者に会ううち「農業で生活できる」イメージが湧いてきた。

大分市の繁華街で焼肉店を営む、同じく３期生の玖須一樹さんは、店の農業部門として収穫の一部を焼き野菜などの材料にできれば、との動機で就農した。ピーマン15アールと甘太くん（大分ブランドのサツマイモ）60アールを栽培。客が来ないと商売にならない飲食店に比べれば「手をかけた分だけお金になるので農業のほうが経営しやすい」と玖須さんは感じている。特に大分のピーマンやサツマイモは農家の部会の力が強く、農協の流通ルートも盤石なので計算が立ちやすいのだ。

繁華街の飲食店には、年齢を経ると夜の水商売を卒業し昼の仕事に就きたい人も多いとか。「そんな人たちを巻き込み収穫を手伝ってもらったり、最終的には産直スーパーなどを開いて仕事場を提供し、飲食と農業と物販の融合を目指したい」と、玖須さんの夢はふくらむ。

販路が安定し、初期投資額が少なく、栽培が難しくない作物さえ選べば農業はリスキーな仕事ではない。一方、付加価値の高い有機農法で独自の販路を開拓するなど挑戦的な選択肢も。農業の未来は多様に開かれている。

「会社員や自衛官の友だちに話すと、皆やりたい、と」（下川祥吾さん）

「陸自やったら、農業の方が楽。給料も取れると思う」（玖須一樹さん）

一品種複合経営

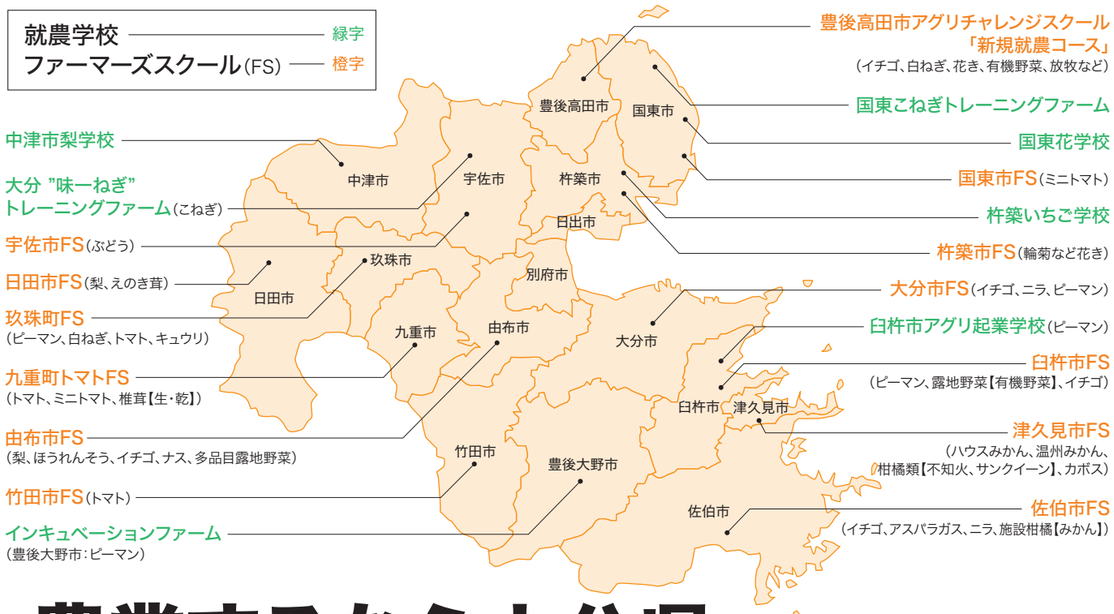
ピーマン15aとサツマイモ60aの場合

売上	8,220,000円
経費	4,390,000円
所得	3,830,000円

一品種単独経営

ピーマン20a（アール）の場合

売上	7,280,000円
経費	4,040,000円
所得	3,240,000円



農業するなら大分県
毎年20～30人以上の新規就農者を育成

前ページのイチゴ栽培のように多額の自己資金がなくても農業はできる。未経験者が最初から利益を出せるよう手厚く指導してくれる学校があるのだ。

ピーマン主体で初年度から400万円超の所得も可能

大分県の臼杵市アグリ起業学校ではピーマンの栽培を主体に学ぶ。大分県は夏秋ピーマンの生産量が西日本一。「ブランド化していて安定販売が見込めるうえ、比較的低い初期投資額で始められます」（臼杵市農林振興課・安藤悠城さん）。１年間の研修中、市内での農地探しも支援してくれる。卒業後すぐ就農できるようフォローアップ体制が整っているのだ。

１期３～６人で、現在３期生が卒業し就農したばかり。新たな生産者として市や農協、生産部会の協力を受けながら栽培技術に磨きをかけ、まずは経営５年目の所得４００万円を目指す。先輩農家の中には就農３年で部会表彰を受けた人もいる。農協に全量出荷でき「収量を上げれば上げるほど儲かると励ましています」（専任講師・佐藤照美さん）。卒業生の就農者には県外からの移住組もいる。

農業は国や自治体の優遇制度がスゴイ！

1 国の交付金※が一人150万円×5年間！

農林水産省は、45歳未満で独立自営する新規就農者に年間最大150万円を最長5年間交付している。研修中は年間150万円、最長2年間。

※農業次世代人材投資資金

2 移住時の家の補修費を半額100万まで！

大分県臼杵市では、空き家バンク登録物件の所有者ないし市外からの移住希望者に対して、空き家改修費の2分の1、上限100万円を助成している。

3 妻が妊娠した際に人件費の半額を補助

大分県臼杵市では、夫婦のみで就農の場合、就農から5年以内の周産期中に必要な外部雇用の人件費（1日8時間、週5日、4カ月限度）の半額を補助する制度もある。

大分県農林水産部　新規就業・経営体支援課　Tel 097-506-3586　HP http://www.pref.oita.jp/soshiki/15270/